

[003] 学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13860>

出版情報：学生法政論集. 3, 2009-03-19. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

今回は応募数はそれなりにありましたが、審査の結果として不掲載となったものも少なくありませんでした。論文は書き慣れるまでは大変ですが、書く喜びを知ると新しい世界が広がると思います。ゼミの先生等の指導を受けて、これからもより多くの方が論文にトライしてくれることを期待しています。(MMK)

今年は2年生の論文も何篇もあり、法学部生としての意欲と水準の高さを感じました。全体的には、まだ投稿数が多いとはいえないので、投稿の時期や方法について検討し、より多くの学生が積極的に投稿できる環境を整えることが必要だと思います。(M. D.)

ここに結実した作品を書いたみなさんは、論文を書くことの「辛さ」だけでなく、「喜び」を実感したと思います。これからも、少しでも多くの方が、その「喜び」を経験できるような『学生法政論集』にできればいいなと思います。(爺)

皆さんの論文を読んでいると、カット・ペーストによらない、「自分らしさの表現の楽しさ」と、独りよがりにならない、「分かりやすい表現の難しさ」との狭間で、頑張っておられる姿がよくわかります。これは、論文書きの永遠の課題です。この矛盾を楽しみましょう。(酔)

初めての編集作業でしたが、大胆で魅力的な論文が沢山あり、それぞれの作品から大きな刺激を受けました。自分の頭で物事を良く考え、それを文章で表現するという作業は、これからの人生でも常に必要とされます。皆さんの将来に、今回の執筆の経験が活かされることを願っています。(A. E.)

読んだこと聴いたことを正確に理解することに加えて、自分の頭の中にあることを表現する作業に取り組み、苦しむことは必ず将来につながります。惜しくも選にもれた論文もそれにかけての労力は決して無駄ではありません。今後の大いなる発展に期待がもてます。

(I K)

『学生法政論集』4号(平成22年3月発行予定)の募集につきましては、「九州大学法政学会ホームページ」および「法学部ホームページ」にて発表します(6月下旬予定)。